

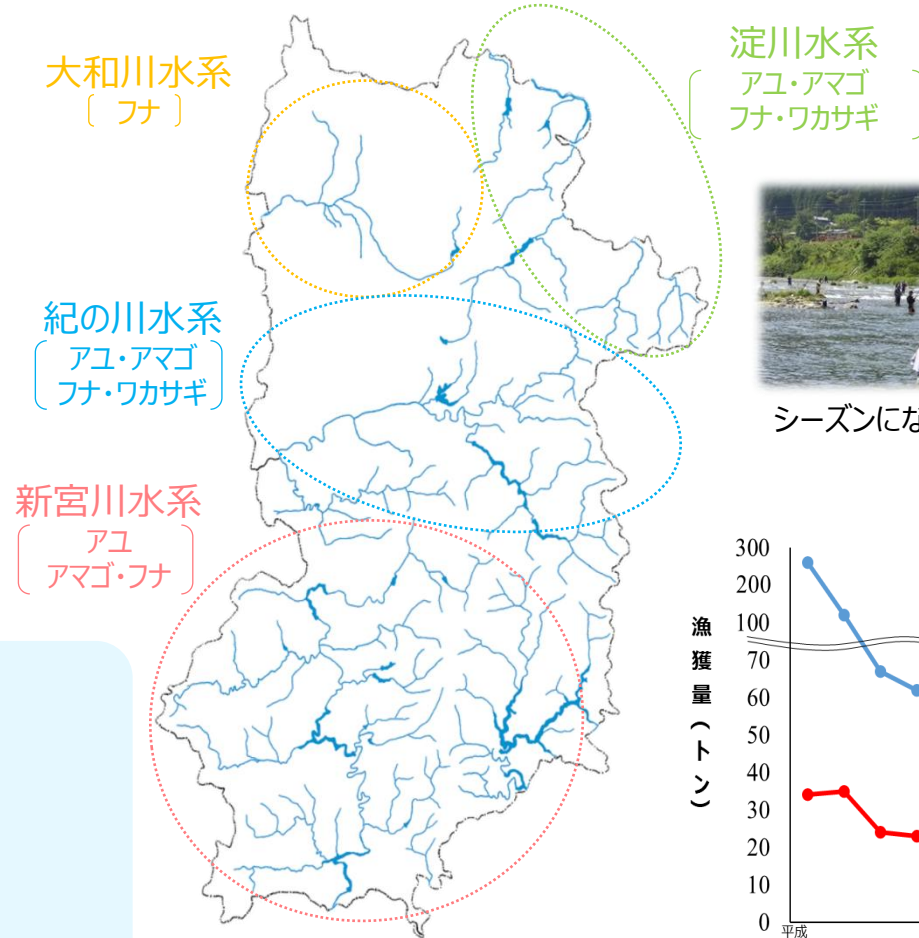
令和7年度 奈良県の水産業の概要（河川漁業）

河川漁業の現状と特徴

- ◆奈良県には、新宮川水系、紀の川水系、淀川水系、大和川水系の4水系からなる河川が流れています。
- ◆県内には21の漁業協同組合があり、各河川では釣りによる遊漁を中心としたアユ、アマゴ、フナ、ワカサギ等の漁業が行われています。

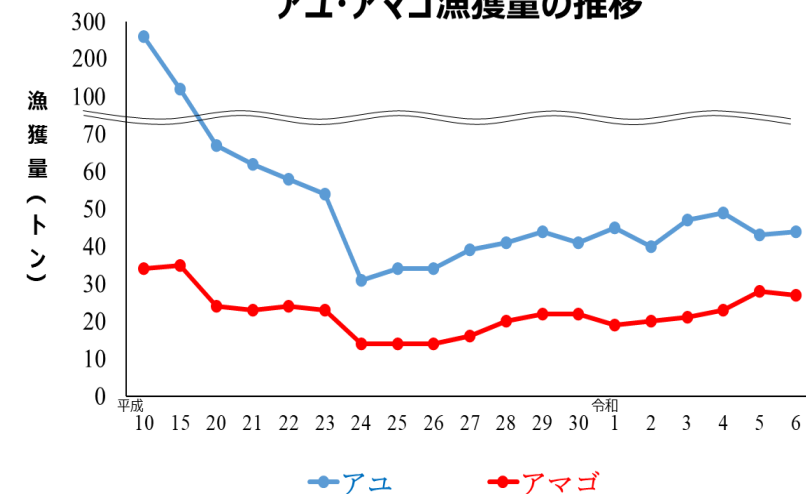
県の取り組み

- ◆アユ資源を増加させるため、健全なアユ種苗放流の促進及び成育状況調査を実施
- ◆アマゴの発眼卵放流や親魚放流の促進
- ◆コクチバス等外来生物の防除技術の普及及び駆除の実施
- ◆水産資源に食害を与えるカワウの被害防止対策
- ◆ワカサギ資源を安定させるため、餌となるプランクトンの調査を実施
- ◆遊漁者を増加させるため、漁協と協力して釣り教室を実施



シーズンになると、県内外からたくさんの釣り人が訪れます

アユ・アマゴ漁獲量の推移



漁獲量TOP 3



アユ

川魚を代表する魚で、「奈良県のさかな」に指定されています。アユ魚が解禁されると、県内の河川には多くの方が友釣りを訪れます。また、県内のダム湖で自然ふ化した稚アユの放流も行われています。



アマゴ

主に河川の上流域に生息していて『溪流の女王』と呼ばれており、「奈良県のさかな」に指定されています。県内の各河川では成魚放流のほかに、発眼卵放流や親魚放流、産卵床造成など、様々な方法で資源増殖が行われています。



フナ

奈良県ではダム湖を中心に釣りが行われています。「釣りはフナに始まりフナに終わる」という言葉があるように、とても奥深い釣りが楽しめる魚です。主に県内で養殖されたフナが放流されています。



健全なアユ種苗放流



アマゴの親魚放流



釣り教室



アユの成育状況調査



外来魚・カワウ対策



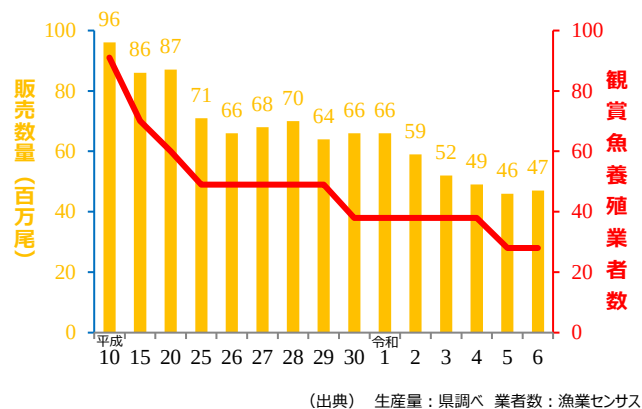
プランクトン調査

令和7年度 奈良県の水産業の概要（養殖業）

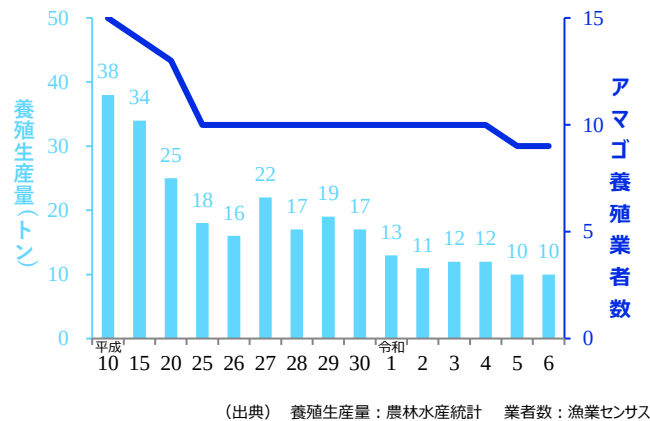
養殖業の現状と特徴

- ◆ 大和郡山市を中心とした大和平野では、水田を改良した養魚池で、金魚や錦鯉の養殖が盛んに行われています。
また、溜池を利用したフナ（鯉）の養殖も行われています。
- ◆ 県南部の吉野郡や県北東部の宇陀郡の山間部では、冷たい清流を利用したアマゴの養殖が行われています。
養殖されたアマゴは河川放流用や食用、加工品等で出荷されます。
- ◆ 高齢化等により、観賞魚養殖、アマゴ養殖ともに業者数は減少傾向にあります。
- ◆ 「奈良県のさかな」に指定されている金魚は、販売尾数が全国1位で、そのうちの約7割を金魚すくい用の和金が占めています。

観賞魚の養殖業者数と販売数量

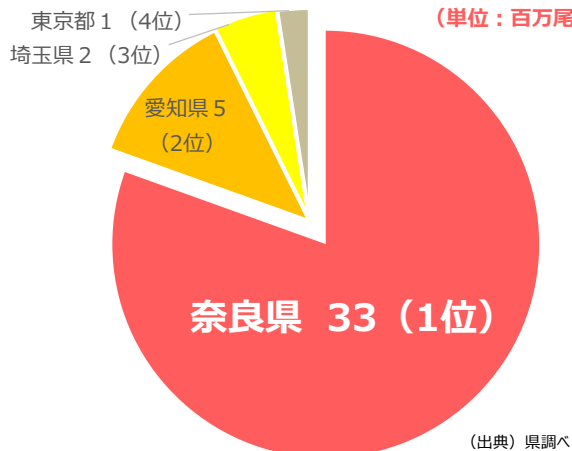


アマゴの養殖業者数と養殖生産量



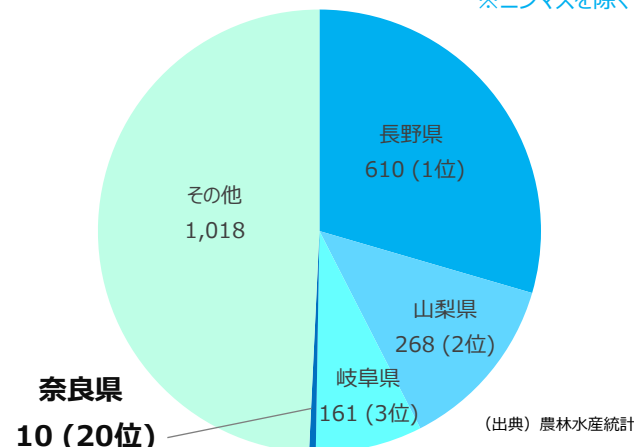
R4 主産4県における金魚販売数量

（単位：百万尾）



R5 マス類養殖生産量（単位：t）

※ニジマスを除く



水田を利用した金魚の養殖



山間部のアマゴ養殖



県の取り組み

- ◆ 生産の安定を図るため、魚病対策等の養殖衛生指導を実施
- ◆ すくい用金魚（和金）主体の生産から高級品種の生産へ転換及び新品種の育成の取り組みを推進
- ◆ 付加価値のある大型のブランドアマゴの開発
- ◆ 生産効率向上のための採卵方法の指導



高級品種の生産



大型ブランドアマゴの開発



採卵方法の指導